

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	小城市立三日月中学校
1 前年度 評価結果の概要	・「先生はわかりやすい授業になるようにいろいろ工夫している」と生徒は86.8%が答えている。今年度も「授業と家庭学習の効果的なつながり」をテーマに研究を進め、十分に浸透させることができなかったため、さらに強化を図る。 ・「この学校でたくさんのことを学び、成長している」と答えた生徒は81.4%、保護者は82.4%であり、一人ひとりの個に応じた指導の成果が出始めているので、今後も継続させていく。
2 学校教育目標	夢に向かい主体的に学び、行動できる生徒の育成 ～信頼・温もり・スマイル三～
3 本年度の重点目標	・主体的・対話的で深い学びにつながる授業改善と家庭学習をつなげる手立てを探る。

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1) 共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
重点取組	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	●主体的・対話的で深い学びを促す活動を中心とした授業づくりの実践	●先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫していると回答する生徒が80%を上回る。	・主体的・対話的で深い学びを促す活動を中心とした学習形態の工夫に取り組む。 ・校内研究授業の充実を図る。	B	・授業研究会に教科部会を設定したことで、教科ごとに専門的な内容まで意見交換することができた。その後、個人で決めた取組を念頭に置き、授業改善を図っている。 ・アンケートで「先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫している」と回答する生徒が80%を上回った。	B	・県調査の結果を踏まえて、全校で取り組む内容の共通理解や指導法の改善・充実のための重点取組の振り返りをまとめた。全職員に確認し、マイプランの改善や改善点を記入するよう促した。 ・アンケートで「先生は、分かりやすい授業になるようにいろいろ工夫している」と回答する生徒が80%を上回った。	B	・概ね達成できている。取り組みの成果が成績にも表れており、今後も期待しています。 ・先生の授業の工夫を生徒が理解している。 ・テスト結果から学校生活の安定と生徒の頑張りが感じられる。また学習に取り組む授業中の態度から学校生活の充実度がうかがえる。	・研究主任 ・学力向上推進教員 ・研究推進委員
	○「ふりかえりシート」と「家庭学習のステップ」を活用	○家庭学習の時間を1時間以上とすることができている生徒が、70%を上回る。	・「ふりかえりシート」と「家庭学習のステップ」を活用して、授業と家庭学習のつながりを深める工夫に取り組む。	B	・「家庭学習のステップ」について、全職員で共通理解を図り、生徒に周知した。 ・授業と家庭学習のつながりを深める手立てとして「かけはしノート」を活用している。ただ、記入する内容の視点の示し方や振り返りの時間の確保など課題もある。	B	・「かけはしノート」の取り組みについて、教師・生徒アンケートをもとに改善を繰り返し、アンケートで平日に家庭で学習する時間を1時間以上と回答した生徒は70%を上回った。 ・県調査の結果やアンケート等を分析することで、今年度中に解決すべき課題を明確にし、全職員で共通理解のもとに実践できるように推進した。	B	・3年生の学習意欲向上は先生の努力の表れと考え、評価します。 ・概ね達成できている。家庭からのアンケート結果にも自宅学習時間が増えることが成績につながっていると思う。	・研究主任 ・学力向上推進教員 ・研究推進委員
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○この学校でたくさんのことを学び、成長していると回答する生徒が90%を上回る。	・道徳教育の充実 ・生徒の「出番」「役割」「承認」を大切にしたい学校行事や生徒会活動の充実 ・集会の内容の充実	B	・各学年でローテーションを組むなどして全職員で道徳の授業を行い、道徳教育の充実と研修に励んでいる。 ・学校行事を実行委員形式にすることで生徒の出番が多くなり自己肯定感・他者への思いやり・社会性の高まりが感じられる。	B	・道徳の授業では85.8%が自分や周りについてしっかり考えていると答え、85.2%が以前より自分や周りに大切にしようとする気持ちが高まったと答えていることから道徳教育の充実が図られつつあると考えられる。 ・86.1%が学校生活の中で自己の成長を感じており、今後も生徒の出番を多く作っていきたく考えている。	B	・生徒、保護者が成長できていると実感できていることを評価します。 ・概ね達成できている。生徒が主体的に活動できる機会をどんどん増やして下され。 ・問題行動、いじめ調査アンケートの結果から生徒が安心・充実して学校生活を送っていることがうかがえます。	・道徳教育推進教師 ・人権・同和教育担当者 ・生徒指導主事 ・生徒会担当
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○学校が楽しいと回答する生徒が90%を上回る。	・毎月いじめアンケートの実施をする。 ・ネットいじめ防止及び情報モラル教育に関する講演会を実施する。	B	・毎月のいじめアンケートを実施し、気になる生徒に対しては聞き取りを行い、早期発見・早期解決に努めた。 ・情報モラル教育の講演会を開催したり、生徒指導通信で定期的に情報モラルやSNSの問題点を伝え、保護者にも啓発を行った。	B	・毎月のいじめアンケートを実施し、気になる生徒に対しては聞き取りを行い、早期発見・早期解決に努めた。 ・情報モラル教育の講演会を開催したり、生徒指導通信で定期的に情報モラルやSNSの問題点を伝え、保護者にも啓発を行った。	B	・この期を大切にし内面に響き指導をさらに充実してほしいと思います。 ・いじめ早期発見・解決、SNSなど新しいいじめの対応、評価できます。 ・概ね達成できている。早期に対応することは問題解決につながるもので、今後もお願ひしたい。	・人権・同和教育担当者 ・生徒指導主事 ・教育相談主任 ・情報教育担当
	●自問清掃の取り組みにより、心の成長につながる。	○自問清掃が心の成長につながっていると回答する生徒が80%を上回る。	・自問清掃の意義や考え方を生徒集会や職員研修で伝え、周知徹底をはかる。	C	・自問清掃に関する職員研修は実施できた。生徒にむけても年度当初に集会を行なった。しかし、コロナの影響で学年集会の回数が少なかったため継続的な指導が例年に比べるとできていない。	B	・自問清掃が心の成長につながっていると回答した生徒は87%と目標を上回ることができた。生徒の自問清掃に対する意識は、ここ数年向上を続けている。継続して心の成長につなげていくために、職員に対する研修を充実させていきたい。	B	・1年生のボランティア活動に対する意識が低いところが気になります。 ・取り組みの方向性は良いと思う。コロナの影響下でやむを得ないところもあるが、概ね達成できていると思う。	・清掃担当 ・生徒会担当 ・生徒指導主事
●健康・体づくり	①「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ②「安全に関する資質・能力の育成」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童生徒80%以上 ②(学校独自成果指標) ③「健康に食事は大切である」と考える児童生徒85%以上 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・生徒会と連携し健康な体作り、食事の大切さを考え、実践と結びつける活動の実施。 ・自他の安全に気をつけ、生活する態度の育成を図る。 ・AEDの使用に係る講習会の実施。	B	・生徒会と連携を図り、感染症対策を強化し、健康な体作りや食事の大切さ、「早寝・早起き・朝ご飯！」など、自己管理を高める活動を全体で継続している。 ・2年生全体で保健の授業や消防署から来ていただいたAEDの使用法を中心に実習を行い、知識を高めた。 ・生徒の交通事故0とはならなかった。集会や交通安全教室時に危険性などについて学べた。	B	・新旧生徒会と連携を図り、健康な体作り、感染症対策を強化した。(体温チェック・換気・マスク・手洗い・手指消毒など) ・2年生全体で保健の授業や消防署から来ていただいたAEDの使用法を中心に実習を行い、知識を高めた。(職員も休業中にAEDの講習を受けた) ・保健体育の授業でも、「食生活と健康」「運動と健康」「休養睡眠と健康」の分野では、自分の生活と照らし合わせて学習を深めた。 ・今年度前半より交通事故の数は減ったが0にはならなかった。集会や放送による呼びかけを行った。	B	・コロナ禍で十分な活動が制約された面もあると思いますが同時に健康・体力作りの大切さを実感できた部分もあったのではないかと思います。 ・概ね達成できている。健康・体力作りは本来家庭が担うべきであり、学校ができる限りの取り組みは充分行われていると思う。 ・食と交通安全に対する意識向上につながる活動を今後も続けて下さい。	・保健体育担当 ・保健主事 ・食育担当 ・教育相談主任 ・生徒会担当
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定と徹底。 ・部活動休養日の徹底。 ・行事の振り返りと次年度改善点を共有。	B	・部活動休養日は徹底することができ、効果的、効率的な活動につながっている。 ・職員アンケートを集約し、行事の振り返りを行った。より積極的な改善が課題である。	B	・通知表の発行回数や行事の規模や時期、実施回数などを常設の委員会で取り上げ、見直しの検討を進めている。 ・定期テスト期間や長期休業中など、年休取得推進期間を設けることができた。更に推進する。	B	・概ね達成できている。部活動も含めて教職員の勤務時間削減を進めてもらいたい。 ・限られた時間で多くの業務、頭が下がります。1人でなく、全職員で取り組んで下さい。 ・学校現場の多忙化の改善はなかなか難しい。現場の努力だけでは限界があり、すでにその限界に来ていると思います。先生方のご苦勞にたいした感謝あるのみです。

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者
重点取組	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○校内研における学力向上の取り組み	ともに学び合い、高め合う生徒の育成～授業と家庭学習のつながりを深める工夫を通して～	学校評価アンケートで1時間以上の家庭学習の時間を1時間以上とすることができているの項目において、70%達成。	授業と家庭学習をつなぐため、家庭学習ノート(かけはしノート)の全職員共通理解による共通実践。	B	・全職員の共通理解のもと、かけはしノートをつくることができた。今後、アンケート結果を参考に改善点等も含め内容を検討していく必要がある。	B	・「かけはしノート」を共通実践することで、生徒による授業評価アンケートによる目標(めあて・ねらい)が示されていると思う「最後に学習内容を振り返る活動がよく行われている」と思う2項目で肯定的に回答した生徒が大幅に増加した。	B	・学力向上には家庭学習と目標を持つことが重要と考えます。今後も「かけはしノート」の活用を続けて下さい。 ・勉強の成果がテスト結果等にも表れており、取り組みに対する効果の現れであると思われる。 ・目標達成に至らなかったものの、着実に成果を上げつつあると考えています。ストラテジーを絞り粘り強く取り組むことが肝心だと思います。	・研究主任 ・学力向上推進教員 ・研究推進委員

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・本年度も教育目標と重点目標を念頭に置いた教育活動が展開されていると考える。生徒は「先生はわかりやすい授業になるようにいろいろ工夫している」と93.3% (昨年比6.8%向上) が答えた。昨年に引き続き、授業と家庭学習の効果的なつながりをテーマとして研究を進め、独自の「かけはしノート」を作成し、取り組みを進めることができた。活用状況について課題を整理し、様式の見直し等も図り、来年度は更に深化したい。「先生は生徒からの相談に乗りアドバイスや指導をしている」と答えた生徒は78.9% (昨年比8.8%向上)、「生徒が悩み等を相談しやすいように共感的理解を心がけている」と答えた教師が96.2%で、日々の実践が反映されている。「この学校でたくさんのことを学び、成長している」と答えた生徒は86.1% (昨年比4.7%向上)、「自他を尊重する気持ちが育ってきた」と答えた保護者は75.6% (昨年比9.6%向上) であり、一人ひとりの個に応じた指導と家庭との連携に加え、教育活動全体を通して取り組んだ各種行事や道徳教育の充実の成果であると考えられる。</p> <p>・今後も開発的な生徒指導に努め、生徒の自己肯定感、有用感を醸成しつつ、教師一人ひとりが教育公務員としての自覚ある言動を常に心がけ、安全、安心で、温もりのある学校経営を目指していきたい。</p>
----------------	--